

経営比較分析表（令和6年度決算）

静岡県焼津市 焼津市小石川駐車場

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A3B1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	都市計画駐車場	広場式	54	

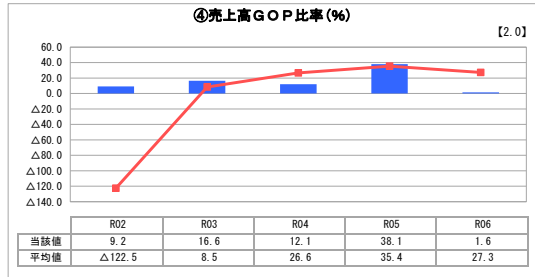
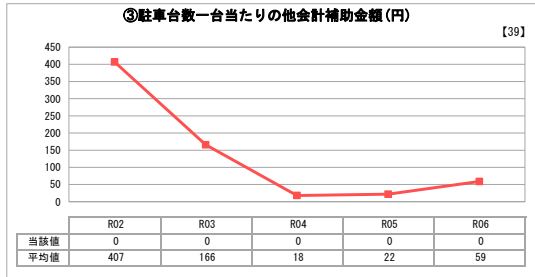
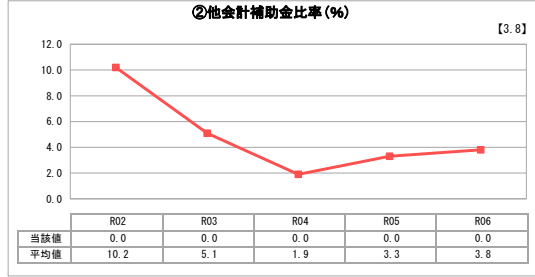
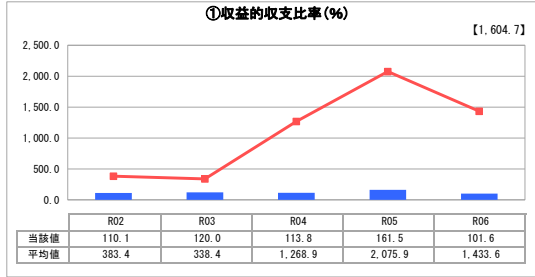
立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
商業施設	無	1,630
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
62	150	代行制

グラフ凡例

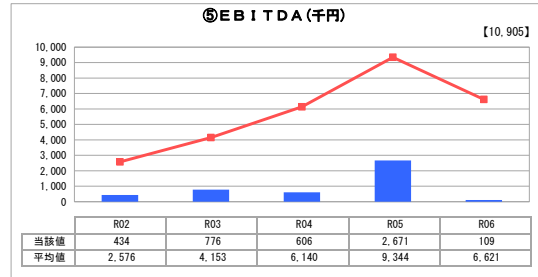
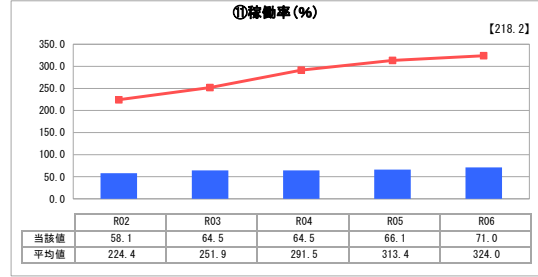
- 当該施設値(当該値)
- 類似施設平均値(平均値)

【】 令和6年度全国平均

1. 収益等の状況



3. 利用の状況



2. 資産等の状況

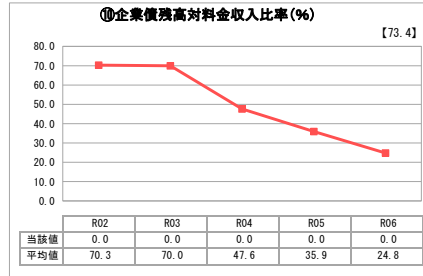


⑦敷地の地価(千円)

40,732

⑨設備投資見込額(千円)

0



分析欄

1. 収益等の状況について
 脱コロナで需要が伸びた令和5年度と比較すると、令和6年度は利用者数が落ち着いたことで、収入も減少した。また、近隣の店舗に販売しているサービス券の売り上げも減少した。①収益的収支比率は低下したものの、100%を上回り黒字となっている。④売上高GOP比率は修繕費や保守点検などの委託費が増加したことにより、前年度から低下した。⑤EBITDAも前述のとおり収支状況の悪化により、減少した。
 ②③関係する他会計からの補助金がない健全な経営状況である。
 今後も周辺施設の駐車場としての利用やキャッシュレス精算のPRなど、利用促進に努めていく。

2. 資産等の状況について
 駐車場事業実施に必要な機器やシステムについては、指定管理者が設置し、適切に管理・保守を実施している。現時点で市として新たな設備投資の計画はない。

3. 利用の状況について
 近隣に開業した子育て支援施設「ターントクルこども館」と連携した利用促進策により短時間の利用がしやすくなったことで、令和3年度以降利用者数は増加傾向だったが、令和6年度は前年度を下回った。
 具体的には、前年度に対し、利用台数は2,477台の減(マイナス13.3%)、収入は64,580円の減(マイナス0.9%)となっている。
 引き続き、上限料金制やキャッシュレス精算のPR、定期利用者の獲得に努め、利用促進を行っていく。

全体総括
 小石川駐車場は令和元年度に上限料金制を導入したことから、焼津駅や近隣商業施設の利用者の一時駐車施設として、また、近隣の民間事業者及び住民の定期駐車施設としての需要が高まり、利用者の定着が見られる。このため、新型コロナウイルスによる利用者減及び収入減も小幅に留めることができたと考えている。
 収容台数が62台と多く、稼働率にも余裕があることから、定期利用の呼びかけ及び近隣商業施設利用の駐車場としての周知をさらに行うとともに、近隣の価格動向を注視し、指定管理者の経営ノウハウを活かした業務改善や、支払い方法などの利用促進策により、収支均衡による経営を継続していく。

経営比較分析表（令和6年度決算）

静岡県焼津市 焼津市駅北口駐車場

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A3B1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	都市計画駐車場	広場式	49	

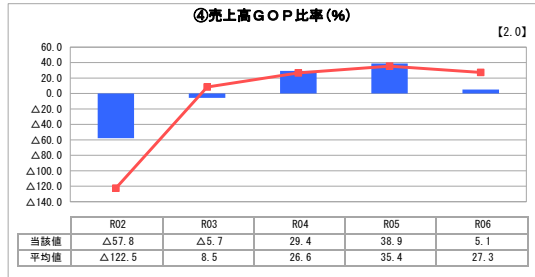
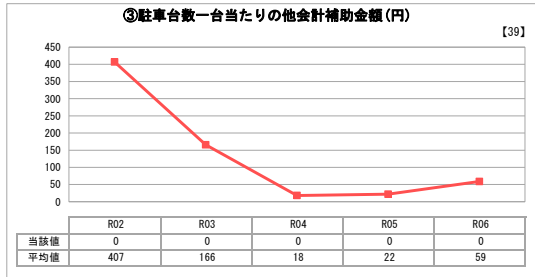
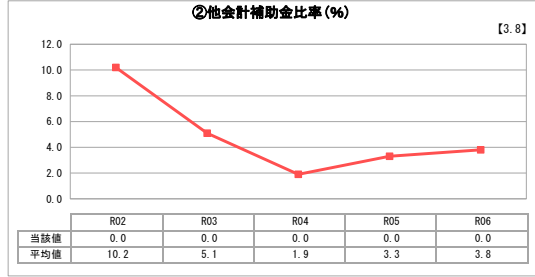
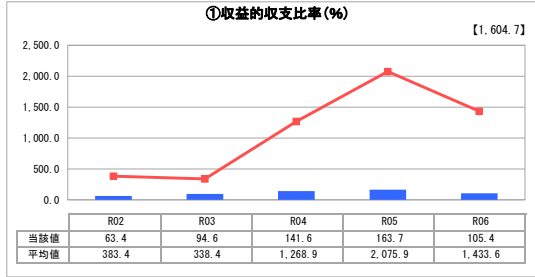
立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
駅	無	491
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
29	150	代行制

グラフ凡例

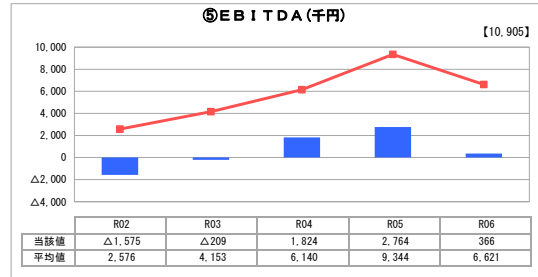
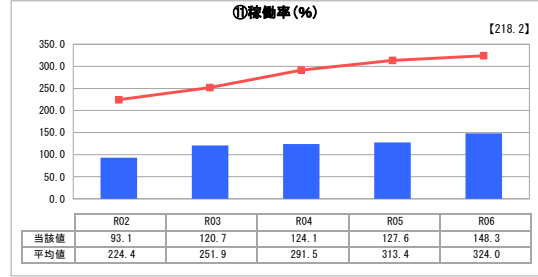
- 当該施設値(当該値)
- 類似施設平均値(平均値)

【】 令和6年度全国平均

1. 収益等の状況



3. 利用の状況



2. 資産等の状況

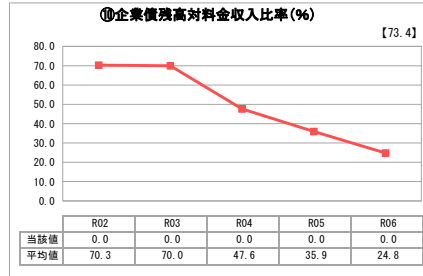


⑦敷地の地価(千円)

26,831

⑨設備投資見込額(千円)

0



分析欄

1. 収益等の状況について
 コロナ禍以降の収支改善策として令和3年度に上限料金を導入し、①収益的収支比率は回復していたが、令和6年度は前年度比で減少しており、類似施設平均値と概ね同様の傾向で推移している。④売上高GOP比率は修繕費や保守点検などの委託費が増加したことにより、前年度から低下した。⑤EBITDAについては、前述のとおり委託費増加など収支状況の悪化により、前年度から減少した。②③関係する他会計からの補助金がない健全な経営状況である。
 近隣の民間駐車場においては料金の価格変動が随時行われており、今後も周辺の料金動向に注視しながら、収支改善に努め経営を行っていく。

2. 資産等の状況について
 駐車場事業実施に必要な機器やシステムは指定管理者が設置し、適切に管理・保守を実施している。現時点で、市として新たな設備投資の計画はない。

3. 利用の状況について
 令和6年度には新紙幣への対応や、QR決済等キャッシュレス対応を進め、利用者利便性を向上させた。
 具体的な利用状況としては、前年度に対し、利用台数は1,260台の減(マイナス7.4%)、収入は103,800円の増(プラス1.5%)となっている。
 利用台数は減少したものの、利用料金は増加しており、1台当たりの利用時間が増えたことが分かる。
 引き続き、上限料金のさらなる周知とともに、キャッシュレス精算のPRなど、利用促進に努めていく。

全体総括
 北口駐車場は利用者数の減少傾向が続いていた中で、コロナの影響も加わり収入が大きく減少していたが、令和3年度に上限料金を導入したことにより、令和4年度以降、利用者数はコロナ禍前を上回るようになった。焼津駅北口に最も近いという立地を活かし、料金の周知等の利用促進に取り組んだことで、鉄道利用時の長時間の駐車といった一定の需要を新たに取り込むことで収益増となり、他会計からの補助を受けずに経営を維持している。
 今後も近隣の価格動向に注視するとともに、指定管理者の経営ノウハウを活かした業務改善や、支払い方法などの利用促進策により、収支均衡による経営を継続していく。